

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	成南地域総合相談窓口（ランチ）
提出日	令和7年6月5日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	認知症高齢者と地域住民の共生の場	
地域ケア会議から 見えてきた課題	（見えてきた課題のまとめ） ・現在、商店街周辺で商売をしてきた住民が後期高齢を迎えている状況。国民年金が中心で介護保険サービス利用に躊躇する高齢者も多いことが判明。また、一軒家のひとり暮らし高齢者も多く、認知症になりやすい環境が存在。住み慣れた地域で長く暮らせるように、認知症になっても地域で暮らせるような取りくみの一環として「想い出教室」を開催。認知症状のある方でも楽しめ、音楽療法や回想法を取り入れ、認知症予防の拠点機能を構築。また、歌を歌うことで、嚥下機能の改善と維持を図った。地域の喫茶や百歳体操による周知活動を通して、新たな地域高齢者との交流が実現。それによって、相談件数も増加した。	
対象	地域の認知症高齢者及び地域住民・民生委員	
地域特性	①子供の頃から結婚してから等、長く地域で暮らしている高齢者が多い。 ②お祭りなど地域活動がまだ現存している。 ③長く商店街で商売をしてきた高齢者が多い。商売の成功で、一軒家を購入した高齢者が多い。 ④地方からやってきた生活保護受給独居男性も一定数存在。	
活動目標	「想い出教室」を開催し、地域の認知症高齢者と地域住民の交流の場の形成。 昭和の懐かしい歌謡曲を歌唱し、口腔機能の維持と改善し、音楽療法と回想法で認知症予防に取り組む。	
活動内容 （具体的取組み）	【想い出教室】 日時 毎月第2火曜日13：30～15：00 場所 千本北 福祉会館 内容 生演奏による昭和歌謡の歌唱 対象 千本地域住民及び周辺地域住民 体制 地域住民 地域活動協議会 民生委員 介護事業所 ランチ職員 目的①嚥下機能の改善と維持による口喉のリハビリ②音楽療法と回想法による記憶のリハビリ	
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	認知症状のある高齢者の居場所作りと活動拠点形成を図った。地域で問題言動のあった認知症高齢者が地域住民の付き添いで参加。「楽しかった」と言って、現在も継続して参加している。また、近隣のグループホーム利用者の方も参加。歌詞カードなしで歌われていたのが印象的だった。民生委員・地域活動協議会・区役所市民協働課・社会福祉協議会・地域包括支援センター・介護事業所等も参加して下さり、皆で一緒に歌うことによって、共感力や協調性を再生し、孤独感や精神的な不安を軽減でき、地域住民及び認知症高齢者からは「良かった」という感想ではなく、「楽しかった」という主観的な感想を聞くことができた。さらに、連合会長・地域活動協議会会長と共に、「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」受講。その後、「ちーむオレンジサポーター登録証」を受理。また、千寿会（老人会）と連携し、敬老の日に出張歌謡教室を開催。来年度も依頼を受けた。	
今後の課題	地域住民の認知症の理解不足という問題点が判明。認知症高齢者と地域住民の衝突の原因となっている。来年度は地域で「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」を開催し、民生委員及び地域住民の認知症の理解を深める方針。さらに、現在問題となっている軽度認知障害について情報提供し、チェックシートによって地域住民の認知症予防の関心を高める。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター	令和7年7月16日（水）	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域アセスメントを丁寧に行い、認知症高齢者と地域住民の共生の場として、音楽療法や回想法を取り入れた「想い出教室」を開催し、住民や認知症高齢者の居場所や活動の拠点となり「ちーむオレンジサポーター」としても認定され、高く評価できる。	